

## 1 札幌市の教育が目指す人間像

教育基本法では、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」と、教育の目的が定められています。

本計画では、札幌市の教育が目指すべき人格、すなわち、上記の「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な姿」を簡潔に表現した「札幌市の教育が目指す人間像」を次のとおり掲げます。

## 自立した札幌人

いかに時代が変わろうとも、「人格の完成」に向けては、一人の人間として「自立」することが求められます。

幼児期に遊びを通して、人や自然と豊かに関わり、自分が誰かの役に立っていると感じるなど、自己肯定感や自己有用感を育むことが「自立」への第一歩です。そして、発達段階に応じて、様々な社会体験を通じ、自らの人生をかけたがえのないものとして受け止め、一人の人間として生きる自覚をもち、未来に向かって行動することが大切です。

しかし、この自覚は決して、自分さえよければ、といった利己的な考え方や、孤立して生きることを求めるものではありません。他者を自分と同じ「自立した存在」として尊重し、共に支え合いながら生きていくという「共生」の思いを併せもつことが不可欠です。そして、「共生」の対象は、身近な家族や地域の方々のもとより、世代や性別、国籍、文化の違い、障がいの有無などにかかわらず、同じ時代を生活している世界中の人々、更には、今の社会を築き上げた先人やまだ見ぬ未来の世代までをも含むものです。

また、誰もが、様々な課題を自らの問題と考え、互いの個性や多様性を認め合う寛容さと相互の信頼感のもとで、自己のもつ能力を十分に発揮して積極的に社会参加し、生きる喜びと幸せを感じることが大切です。

本計画では、このように、広く、時や空間を超えた他者との「共生」への願いを込め、「共生」と一体となった幅広い意味をもつ「自立」を「自立した」と表現しています。

一方、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」は、不変なものであるとともに、時代の変化に伴って変わるものでもあり、また、同じ時代であっても、地域の状況によって左右されるものです。

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字<sup>53</sup>をとって「VUCA」の時代とも言われています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響や、昨今の国際情勢の不安定化は、まさに予測困難な時代を象徴する事態であり、こうした状況にいかに対応していくかは、今後、重要な課題と言えます。

社会の変化に柔軟に対応しながら、これからの時代を生きるためには、AIでは代替することのできない豊かな人間性がこれまで以上に必要となります。多様な人々との関わりのなかで、人間ならではの感性や創造力を発揮し、自他のよさや可能性を認め、高め合うことを通して、自分の軸とともに対立やジレンマに対処する強さと柔軟さ、いわば、しなやかさが備わり、自分らしく生きることが可能となります。そして、自分らしく生きていくことが保障され、自らの考えを広げ深めながら、新たな考えや価値を創造していき、系統性・連続性をもった質の高い学びを重ね、一人一人が成長を実感したり、学んだ成果を発揮したりすることは、個々の夢や希望、生きがいへと結びつき、個人それぞれが幸せや豊かさを感じるとともに、地域、社会も豊かさを感じられる、いわゆる「ウェルビーイング」を創る原動力となります。

このような状況を受け止め、先人が知恵と努力で築き上げてきた、この自然豊かで文化芸術の薫り高いまちを、次世代に良好な形で引き継いでいくには、様々な変化に柔軟に対応できるよう、知識を覚えるだけでなく、知識をどのように生かし、組み合わせていくのかを自分で考え、判断、決定、行動すること、そして、多様な生き方をしてきた人々の意見や考えを踏まえ、多面的・多角的に考察、構想し、構想したことを基に、これまでの自己の生活を振り返ったり、社会生活に生かそうとしたりして、新たな価値を創造し、主体的に社会の形成に参画していくことが必要といえます。こうした資質を有する人間の在り方を「札幌人」と表現し、札幌の豊かな自然や社会、文化の中で学び、生活した経験をもつ者が、その恵まれた環境の中で育まれる創造力や豊かな心などの総合的な素養を生かし、自身を理解するとともに、ふるさと札幌における学びや成長を実感し、その過程や経験に誇りをもつ視点と多様な価値観や文化を理解、尊重する視点を併せもち、他者と協働しながら持続可能な社会の発展に向けて行動する人になってほしいという思いが込められています。

すなわち、「自立した札幌人」とは

- ・ 未来に向かって 新たな価値を創造し 主体的に学び続ける人
- ・ 自他のよさや可能性を認め合い しなやかに自分らしさを発揮する人
- ・ ふるさと札幌に誇りをもち 持続可能な社会の発展に向けて 行動する人

であることを意味しています。

<sup>53</sup> : Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)

## 2 基本的方向性

札幌市の教育が目指す人間像「自立した札幌人」の実現に向けて、社会情勢の変化や札幌市の教育の現状と課題を踏まえ、今後の教育施策を展開するうえで、教育機会と活動の視点、地域連携と学び続ける視点、土台となる環境整備の視点から3つの基本的方向性を次のとおり、掲げます。

### 基本的方向性1 一人一人が自他のよさや可能性を認め合える学びの推進

- 一人一人のよさや可能性を生かし、多様性を尊重する態度を育むことで、自他の考えを広げ、新たな価値の創出につながる取組を進めます。

様々な情報が溢れ、人と人との関係性が複雑化する社会において、子どもが自立し成長するためには、自尊感情を醸成し、多様性を尊重する心を養う必要があります。子ども同士が支え合い、生かし合うといった関わりを通して、自己肯定感、自己有用感が育まれ、個々の多様な能力の伸長が図られます。

また、先行きが不透明で、将来の予測が困難な未来を迎えようとしているなか、こうした社会で生きる子どもたちには、予測される世界を想定し、そこから逆算して対応策を考えるだけでなく、自らが望む未来に向けて、自ら課題を見出し、その解決を目指す過程で他者と協働しながら複雑化・多様化した社会の課題解決につなげ、人生、社会をより豊かにするための新たな価値を創り出していくことが必要です。

- 様々な悩みや不安を抱えた子どもの心のケア等、幅広い取組から、学校等が子どもたちにとって、安心感、充実感が得られる活動の場となるよう支援の充実を図ります。

社会環境や家庭環境など、子どもたちを取り巻く環境は複雑化するとともに、不安定さや不確実さが増しており、子どもの心身や人間関係など、多方面に影響を及ぼしています。学校等が子どもたちにとって、安心感、充実感が得られる活動の場となるよう、いじめや児童虐待の未然防止や早期対応、不登校児童生徒への対応、様々な悩みや不安を抱えた子どもたちの心のケアなど、幅広い取組が必要です。

- 一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自分らしく豊かな生活を送ることができるよう、それぞれの状況を踏まえ、多様なニーズに対応した教育支援体制の整備を進めます。

不登校や障がいのある子、日本語指導教育が必要な子など、様々な環境にある子どもが、未来に希望をもち、夢に向かって学ぶことができるためには、教育活動を通して、一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自分らしさを発揮し豊かな生活を送ることができるよう、それぞれの状況を踏まえ、多様なニーズに対応した教育機会の確保が必要です。

## 基本的方向性2 学校・家庭・地域総ぐるみで育み、生涯にわたり学び続ける機会の拡充

- 学校・家庭・地域が一体となって地域全体で子どもたちを支援し、関わり合いのなかで子どもの声を大切にしたい学校・地域を目指すことで、子どもも大人も育ち合い、よりよいまちづくりにもつながる活動の充実を図ります。

自然災害や事故・事件、感染症等の健康問題、家庭環境の多様化等、子どもたちを取り巻く環境は不確実性が高くなっています。そのような状況の下、学校の運営に当たっては、学校だけで解決できない課題も多く存在しています。また、幼児教育から各段階に応じた切れ目のない支援を行うためには、教育委員会や各関係機関だけではなく、学校、家庭、地域の教育に携わる全ての人が、それぞれの役割と責任を果たしながら、互いに連携協力し、子どもたちを支える、まさに、社会総がかりで子どもを育む活動に取り組み、教育課題を解決していくことが必要です。

これからの時代は、個人が豊かに生き、自立するだけでなく、社会を構成する人々や組織が互いに協働しながら様々な問題を解決していくことが求められます。そのような時代を担う子どもたちが心豊かでしなやかに成長するためには、子どもの頃から、社会や人々と関わり、多様な経験をする必要があります。地域には多様な人的・物的資源があり、子どもたちは、地域の人々との日常的なふれあいや様々な経験を通じて、地域の構成員としての社会性なども身に付けることができます。また、子どもの声に耳を傾ける学校や地域となることで、子どもの自己決定、自己実現の場を創出することにつながります。教育に対する市民の関心と理解を一層深め、学校と家庭、地域が目標を共有し、地域全体で子どもの学びや育ちを支えることで、保護者や地域住民が学校の諸活動により積極的に参加できるように取り組み、子どもも大人も育ち合う教育活動の推進に取り組むことが必要です。



- 一人一人がより豊かな人生を送ることができるよう、全ての人々が、生涯にわたり学び続けられる場を充実させるとともに、持続的な地域コミュニティの形成に向けて、学んだ成果を生かすことができる機会の拡充を進めます。

全ての人々が、生涯にわたり人生を心豊かに過ごすためには、どのライフステージにおいても主体的に学び、学びの成果を社会に生かすことが求められています。誰もが生涯を通じて知識や必要なスキルを学び、ふるさと札幌における学びや成長を実感し、その過程や経験に誇りを持ち、豊かな人生を送ることができるよう、生涯学習センター等の社会教育施設を通じ、子ども、若者、子育てをする保護者、成人、高齢者といったそれぞれのライフステージに応じた学びの場を充実させることが必要です。その活動を通して新たな出会いや交流、活力が生み出され、活動の楽しみがふくらみ、自分が学んだ成果を地域づくりに生かすなどし、地域社会に還元することで、さらに学ぶ意欲がわき、交流の輪がより一層広がっていくといった好循環が生まれます。

こうした全ての人々が、生涯にわたり学び続けられる場を充実させるとともに、学んだ成果を主体的に地域づくりや市民活動に生かすことができるよう、社会教育の推進や生涯学習環境の仕組みづくりを進め、持続的な地域コミュニティの形成に向けて、学んだ成果を生かすことができる機会の拡充が必要です。

### 基本的方向性3 社会の変化に対応した教育環境の充実

- デジタル化・グローバル化などの様々な環境変化に対応し、子ども一人一人の学びを支える教育環境の充実を図ります。

子どもたちの豊かな学びを育む教育活動は、安全・安心な環境が土台となってはじめて成り立ちます。その中で、子どもたちは主体的に学び、他者と協働しながら、生きる力を培い成長していくことが期待されます。教育が取り巻く環境の変化を踏まえながら、子どもたちが安心して充実した教育機会を得られるよう、学校や社会教育施設の向上を図る必要があります。

デジタル化やグローバル化などの様々な環境変化に対応し、子どもたちが充実した学びを進めることができるよう、子どもたち一人一人の学びを支える教育環境の整備や指導体制の構築を進めることが必要です。

また、教職員が働きがいを感じながら、心身ともに健康で働くことにより、教育の質を向上させ、子どもが豊かに学び育つことができる学校となります。そのためには、社会の変化や教職経験を踏まえた教職員の資質向上を図る研修を進めていくことに加え、教職員が生き生きと子どもたちと向き合うために、働きやすい職場づくりを目指し、教職員一人一人がその力を十分発揮できる環境整備を進めることが必要です。

- 地域における人々の課題解決を支援する学びの場として、生涯学習センターや図書館等の機能を強化し、生涯にわたる学びを支える環境の充実を図ります。

人生100年時代の到来が予測される社会では、全ての人々が生涯を通じて、自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを生かし、自分らしさを発揮し、活躍できる環境を整備していくことが不可欠です。市民の価値観やライフスタイルの多様化のなか、今後、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことの必要性が一層高まっていくことが指摘されています。そのためには、地域における人々の課題解決を支援する学びの場として生涯学習センターや図書館など、身近な生涯学習施設における市民の主体的な学びを支援する機能を強化し、生涯にわたる学びを支える環境の整備を進めることが必要です。

# トピックス

## 札幌らしいコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を置く学校です。学校運営協議会とは、法律に基づき教育委員会から任命された委員が、一定の権限と責任を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことです。

### コミュニティ・スクールの主な3つの機能

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができる
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

学校と保護者や地域が目指す子ども像を共有して、一緒に地域の子どもを育てることを目的に、「**学校運営協議会**」と「**地域学校協働活動**」とが両輪となり、進めます。



札幌市では、「小中一貫した教育」の推進の四つの視点の一つである「家庭や地域との関わり」の一層の充実を図り、学校・家庭・地域と一体となって、子どもの育ちを9年間継続して支えていきます。

また、札幌市の子どもの手によってつくられた「さっぽろっ子宣言『プラスのまほう』」の実現を応援していきます。そのためにも、子どもの声を聴き、子どもの思いの実現に向けて、学校・家庭・地域が一緒になって考えていきます。

